

発言者	発言要旨
座長	議事の1番目、第1回及び第2回コミュニティ意見懇話会の論点整理について、事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料1説明)
座長	ただいま事務局から説明を受けたが、何かご意見等はないか。活発な議論やフリーディスカッションの中から意見をまとめて論点の整理をされていると思う。この論点が足りないというところはないか。
委員	<p>この資料1の4「行政の連携・協力体制の充実」というところで、先日私たちのコミュニティ協議会の役員会に都市計画課の方が来られて、市営住宅の跡地をどのようにしたらいいかについて、役員を含めた地域住民の意見を吸い上げたいと(言われた)。私たちから見るとどこの課であっても同じ市役所なので、行政内部の連携はとても大事だと改めて思う。</p> <p>また、後継者づくりは学校の校長や教職員との連携もさることながら、巣立っていった子どもたちがある程度経ったら次の協議会を担っていく人材になるので、その連携はとても大事だと資料を見て思った。今日、校区の小学校が来年度で50周年という節目を迎えるに当たり、実行委員会を立ち上げ、協議会の役員にも実行委員に名を連ねて欲しいという要望があった。79小学校校区にコミュニティ協議会があるということからすると、次世代を育てるということと学校を中心とした地域の連携ができるという点で、資料1の4は特に印象深い。</p>
座長	経験を踏まえた感想だが、これまでの議論にあったように、鹿児島市の校区に基づいたコミュニティスクールとの連携ということが、今回の議論の中でも特徴的なことになると思う。他にあるか。
委員	<p>地域PTAがなくなる、また簡素化していこうという状況がある、それはPTAの事情かと思うけれど、コミュニティスクールができて、地域と連携していく上で、学校がここまでやるのかという状況も出てきている。今まで校区公民館運営審議会の活動も引きずっていて、若い世代が活動を変えていく中で、地域の組織が意識を変えていかないと、一緒に協働していくところが成り立たないというのを最近感じている。そういう意味で、意見懇話会は先を見越したとらえ方をしていけないといけないと改めて思った。</p> <p>今、現状が出て、やるべきことが整理されているので、その中で人間関係や組織がどう変わっていくのか、大事にしなければいけないのは何なのかを認識をしていくためのコミュニティ協議会だということを私たちは認識して表現していかなければいけない。まとめていただいたところもいいと思うが、何か自分たちの意識をこの先どう持っていくのかを意識づけないといけないと思う。先を見越したと言ってもなかなか難しいと思うけど、若い人たちに地域づくりへの参加を促していく中で、どうしていったらいいのかを考えて</p>

発言者	発言要旨
	<p>いかなければならないと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>関連して、コミュニティ協議会というような形で組織ができ上がっていく中で、コミュニティスクールとの連動による学校、家庭、地域の連携はもちろん、多世代が交流をしながら、共にまちや生活を形成していく時代で、子どもたちも地域の問題解決、これからの社会生活をどうしていくのか、一緒に考えていく時代が到来したということになる。そうすると、この学校がしないといけないとかいうレベルではなくて、子どもたちと関わることで親たちもお互いが学び合いながら次の世代をどうしていくのかを考えていくと、受け皿として協議会が機能するのは非常に大きなことだ。もちろん自治会がこれまでやってきた自治活動は大事（だが）、みんながそろってこれからどうするか考える場としての協議会は非常に大きな役割を果たすだろうと思う。当然学校、家庭、地域というような枠組みではなく、みんなで膝を突き合わせて会話をしたり話し合ったりするような場として協議会があって、そこにコミュニティスクールや社会福祉協議会、企業もそろってこれから労働を考えていくのかということとは同じテーブルで考えていく。</p> <p>ここで皆さんにも考えていただきたいのは、ICTがどう絡むかだ。2025年問題は、いわゆる団塊世代が75歳（に到達する）高齢化の問題と言われているが、その裏返しとして「ミレニアル世代」と言われている、いわゆるデジタルネイティブの世代が地域労働の中心になっていく。その世代は基本的にそれ（デジタル）をツールとして使いながら、コミュニケーションであったり、情報を得たり、生活を繰り返している。ここは大事なことで、実はそこ（デジタルネイティブ世代）と、団塊世代が分断してしまうと、価値や思い、文化といったものが、断絶する可能性があって、ICTの問題というのは、その世代間を繋いでいくための大事なプラットフォームになりうるだろうと考えている。だから導入して、高齢の方々が今まで培ってきた価値（例えば文化）を次の世代をつないでいくような環境を整備していかないといけない。それは学校単体や町内会でできることでもなく、コミュニティ協議会という連結していく存在の中で、学校、高齢者、福祉、労働者や子育て世代というものが一堂に会して、お互いの大切な価値をもう一度確認していく文脈でコミュニティが機能するということだと思う。だから委員が言われたように、コミュニティスクールやコミュニティ協議会、そして組織の統合は、かなり重要な意味を持つと思っているので、私は4番目のファーストステップにICTも絡んでいくような話なんじゃないかというふうに（思う）。</p>
<p>座長</p>	<p>先ほど「コミュニティスクールで、学校がここまで出てくるか」というお話があったが、学校側も業務過多にならないよう注意する必要がある。私はコミュニティスクール委員を務める際、学校が地域に出て行って地域をつなぐ</p>

発言者	発言要旨
	<p>というよりも、学校の困りごとを地域がサポートし、地域の要望に学校も応えることが教育活動として win-win になるよう、無理なくやれることを意識している。そのため学校で手が足りない部分、例えば部活動の見守りや保健室登校の生徒への声かけ、学習困難者への支援、行事等の手伝いなど、先生方を地域が補佐するという視点も忘れないようにしないと、学校の機能が肥大化して疲弊していく。かといってコミュニティ協議会もあまりやりすぎると肥大化して、人集めや人づくりが大変ということになりかねない。4番を踏まえた上で、1番の協議会の目的の位置付けを確認して発信するところに繋がることを考えると、人材の育成確保が重要になってくる（と思うので）、うまく繋がってコンパクトに論点がまとまっていると思う。</p> <p>印象としては、まず2「地域住民の参加・参画の促進」で人を取り込むというところが入っていて、3「リーダー及び担い手の育成」ではリーダーあるいは担い手、コーディネーターの育成が入っているけれども、そもそも、既存の役員やコーディネーターという意識の高い方々を育成するだけではなくて、幅広い層から母数をもう少し取り込まないといけないのではないか。何か適した言葉でもう少しそのあたり入れ込めないか。2でこれはカバーできるか。</p>
委員	<p>ICTもそうだけでも、緩く繋がっていくということ。できるだけコミュニティ協議会のような組織に参加しやすくするような、交流とか実践みたいなものが重要であり、それらは、閉ざされているものではなく、そこがきっかけとなって、それぞれの自治会同士つながりへと広がっていくと思う。いきなり自治会に入るのが当たり前というのは今の時代にそぐわないから、やはり皆さんで実際にコミュニティで顔を知り、触れ合ってそこからいろんな組織と一緒に属してやっていきましょうというような緩やかな感じで参加していくのかなと思う。だから、協議会というのは多くの方々に参加できるような仕掛けを作り、それぞれの団体がそれぞれの母数を増やして相互扶助を考え、最終的には生活やみずからの生き方に関わってくるような活動にしていけないといけない。役割や仕事がおりてくる組織とは多分違う。</p>
座長	<p>文言的にはこのままで大丈夫か。</p>
委員	<p>(文言を) 入れるとすれば、もう少し幅広い方々への声掛けとか、集まりやすい緩やかな繋がりを形成していくような言葉が入るといいと思う。</p>
座長	<p>3番目に繋がると考えると、参加促進のためのICT活用というまともになっているので、この辺りに何か緩やかなコミュニティづくりのきっかけづくり(を入れると良いと思う)。</p>
委員	<p>「風通しのいい」でもいいし、そういう緩やかな感じの文言を入れると良いと思う。</p>
委員	<p>もう一つ項目を増やした方がよいと思う。</p>

発言者	発言要旨
座長	<p>地域の様々な主体の取り込み、これはおそらく事業所や企業等を想定していると思うので、それ以外で市民の方が生活に繋がるようなことも含めてもう一つキーワードを何か（増やせると良いと思う）。</p> <p>他になければ、今日は数多く出てきたご意見を今後につなげるためにまとめていく作業になるので、次の議事に進みたいと思うがよろしいか。</p>
	(異議なし)
座長	議事の2番目、コミュニティビジョンの検証について、事務局から説明をお願いします。
事務局	(資料2説明)
座長	ただいま事務局から説明を受けたが、何かご意見等はないか。特にこの実施状況の評価の部分がこの評価でいいかなど何かあればお願いします。
委員	<p>私が気になるのは、「結びづくり」の「地域コミュニティ組織間の連携の支援」だが、実際にコミュニティ協議会の役員をしており、自分のところの問題は自己完結型だが、近隣の他の協議会はどのように考えているのか、私が担当している社会教育部会で他の協議会の部会長と連絡をとることは（難しい）。一番悩んでいることは、校区文化祭を開くにあたって、他の協議会はどのような進捗状況や考えを持っているのか、具体的なことがわからない。地域の方たちが喜ぶ校区文化祭をするにはどうしたらいいか、自分のところはこんなことをやっているという意見交換や情報を共有して、いいところは真似して、次に進んでいけると思うが、協議会間で隣の校区の協議会と情報交換や連携がうまくいっていないので、個人的な考えからすると○ではなくてもっと下だと思う。</p> <p>自分たちだけでやっている、どうしても昨年もそうだったから今年もこんな形でやるしかない（となるが）、他のところでいい工夫があれば、それを導入することも（できる）。鹿児島市全79校区の協議会の連携が、うまく回っていくといいと思う。あいご会では中央とか伊敷とかいくつかのエリアに分けて、その中で地区の大会は年に1、2回ある。そういった形で、コミュニティ協議会も地区ごとに何かやっていくと、お互いに切磋琢磨できる気がする。</p>
委員	吉野では公民館を主にした社会教育部会をやっている。地域公民館のエリアで社会教育部会をやっていて、意見交換をしている。市は事務的な連絡部門として、支所が中心になって、コーディネーターがその中で意見交換している。私たちは当初、どうして一緒にできないのかという話をしたが、教育委員会と支所が分割されて、最初一緒にやったけれどもうまくいなくて、別々にここ何年間かやっている。交流しそれぞれブロックの単位で意見交換ができればより良い（と思う）。

発言者	発言要旨
	<p>ブロック単位のほうが声を発しやすいと思うので、皆さん方も参加していただいて、意見を聞いたり、あるいはアドバイスしていただければ、より良いと思う。企画段階で行き詰まって、昨年の通りやれば良いという感じだと思うので、これから協議会を活かしていこうとなったら、そのようなところへ声かけをして、投資をしていただければありがたいと中に入っているものとして意見する。</p>
座長	<p>とすれば、実施状況の評価は△になりそうか。</p>
委員	<p>単一のコミュニティ協議会での組織間の交流や連携はほぼ○になるということで、私は先ほどの発言は、コミュニティ協議間に重きを置いてしまった。訂正すると、自分の組織の協議会を見たり、アンケートやヒアリングを聞いたときなど、校区運営審議会のときとすると、協議会になってから、連携はうまくいしつつあるという気がするので、○で十分だと思う。プラスアルファで、先ほど話が出たように、隣の協議会との連携がうまくいくと、発展的なことに繋がると思った。</p>
座長	<p>これまでの主な取組が設立のみになっていて、アンケートではここにあるように設立後の印象を語っているので、乖離している部分があるのだと思う。</p>
委員	<p>地域コミュニティ内の組織間の連携ということ。私はこちらの表題を見たときに、それぞれの組織の間のイントラとインターとその両方を混在してしまった。</p>
委員	<p>要望も含めてだが、実はコミュニティビジョンの検証シート評価という形になった場合に、多分行政の方々も今言われていることだと思うが、アウトプットとアウトカムの話があって、今回の評価は、基本的にアウトプットの印象がある。中身やビジョンが設定されて、どれぐらいのことが起きたのか、できたのかというところを検証した形での表現だが、私が欲しいのはこれをやったことによって何が生まれたか、どうなったのかということが大事だと思う。象徴的なのは、ポータルサイトを設置して概ね満足と言うけど、それを今作ってどうなったのかを検証しない限り、作ってとりあえず満足となる。つまり、ある程度できたけどそれによって一体どうなったのか、どういう目標や目的ができたのか、何ができるようになったのかというアウトカムの情報を取っていかない限り、そこから先が発展しないと思っている。多分これからのビジョンをどう評価していくかは、これを通して、次に何ができるようになったのかという評価と連動していかないと、次の目標やビジョンが立てられない。</p>
委員	<p>課題は一つ解決したら終わりじゃない。課題はまた次の課題に繋がっていく。それが本当の地域づくりだと思う。次の課題に対して市は助成金をやるという意識でやってもらわないといけない。今の(課題)が解決したからそれ</p>

発言者	発言要旨
	<p>で終わりというようなことではなくて、その次にまた課題が出てくるようなことを生み出しながらやっていかないと（いけない）。私も次にイベントをするときは新しいことを一つ加えないと、自分のモチベーションが上がらなるとよく言う。次の課題をやっているうちに絶対に課題が出てくる。さらに今おっしゃった底辺の部分の人の広がり求めていこうというところに向いていけば、コミュニティビジョンがやがて達成される。そこ1年で達成されるものではなく、何年もかけて、ある程度それが見えてくるというところをみんなで意識してやっていけば、ある程度モチベーションができていく（と思う）。何か一つやって疲れたでは、それでもう終わったとなるので、そういう意味の人材育成をやっていかなければいけないと思う。</p>
座長	<p>今の議論だけれども、このアンケート調査の項目は我々が検討したものだ。それに沿って評価すると、地域コミュニティ協議会の中で、連携が次に向かっているか、どのような影響があったかという設問まで我々が思いつかなかったので、今回のアウトカムまで結びつくところまで深く聞いておらず把握しにくい。この調査結果が中心にはなるが、それだけで実施状況を評価するわけではない。とすれば今の委員の皆様のご貴重なお意見をもとに、まだアウトプットの段階でアウトカムがないとか、次の課題を議論しながら設定していくところが重要で、課題感も現場ではあるということで、調査内容の改善も含めて総括に表現する手はあるのかなと思うがいかがか。このアンケートの結果だけで実施状況に○×を付けるだけではない、そのための委員会（という認識でよろしいか）。</p>
委員	<p>点検のイメージだったけども、でもこれを点検しつつ、今後どうすべきかという次の問があるべきだと思う。</p>
座長	<p>市はEBPMで取り組む方針になったと思うので、こういうご議論も参考にして次の項目等を立てるときに活かされたらアウトカムに繋がると思う。貴重なご意見ご議論だと思う。</p> <p>必要なときに具体的な細かな情報を事務局長が聞き合っ、他のコミュニティ協議会と共有するというのは、この〈環境づくり〉の3つ目の項目に「市が会長連絡会、意見交換会を開き」とあるが、これは多少なりとも全般的に交流交換には役立っているのか。だとすれば、3つ目と〈結びづくり〉の1つ目の項目は関連するのとか。地域コミュニティ間の連携を支援すると、情報提供がお互いに進んで、好事例が共有されるレベルが上がる。そのための交換会や現場レベルの交換会を開くと、当然〈結びづくり〉の地域コミュニティが組織内だけではなく、組織間の連携の支援にも繋がるみたいなイメージを思った。いずれにせよ実施状況の評価は、次に結びつけるための検証ということでよろしいか。他に何かあるか。</p>

発言者	発言要旨
委員	<p>評価のシステム上しようがないと思ったが、〈人づくり〉のリーダー育成のところが、まちづくりの講座をしているが、年度ごとに講師も違うので、どちらとも言えない53%になっているということでの評価が正しいのかと思っている。概念的なことを話す方もいればパーツ的なことを話す方もいらっしゃるので、満足度は年度によってかなり違っただろうと（想像できる）。他は○以上で、ここが△なのだが、そこを一概に評価していいか。中身によって補足するべきところもあるかを1回精査する必要があると思った。</p>
座長	<p>なるほど。予想だが、参加型学習だとやはり腑に落ちやすいというか、印象に残りやすいので、アンケート調査をするときに会長も好印象は出ると思うけれども、講義型の研修だとやっぱり流れていってしまうところもある。とても重要ではあるのだが、そうなると覚えていなくてどちらとも言えないとなりやすいことを考えると、ここの部分どうするか。</p>
委員	<p>ここは1回中身がどうだったか、具体的に精査していく。次実施するとき、アンケートの取り方をどうするべきかも出てくる。先ほど委員がおっしゃったことも、重要だと思ってきて、これを受けてどうなったというのは運用の部分。次あった方がその評価が総合的に取りやすいと思う。それは次回の宿題だ。</p>
座長	<p>データとしては最も満足度が低いということからすると、現状の評価を付けざるをえないというのはあるが、次に向けて具体的に検証するのも必要かもしれない。このコミュニティ活動推進講座について、事務局から何か補足があるか。</p>
事務局	<p>会ごとにアンケートをとっているかどうか定かではないから、それぞれでどうなるかっていうのが（わからない）。</p>
委員	<p>その年度で総合的にヒアリングしているということか。</p>
事務局	<p>そのとおり。</p>
委員	<p>要するにそれに参加した人たちの思いがそこにあまりマッチしていなかったという感じなのか。</p>
委員	<p>全体で見ると、この10年でまちづくりやコミュニティ協議会という概念的なところはかなりインプットされている。次、運用をどうしていくか、地域ごとにどうアウトプットするためにインプットするのかという人材育成をちゃんとしてかないと、その絵に描いた餅で、概念を追い続けて、誰が具体的にどうするところを落とし込めないのだろうとこれを見ながら思った。</p>
座長	<p>まさに第二段階に進むためだ。</p>
委員	<p>協議会として目的の最適化みたいな話があった。そこと連動しているのかもしれない。こうしたい、こうありたいから、何が必要という構図にしていかなければならない。</p>

発言者	発言要旨
委員	<p>専門部ごとに関くとか会長は会長で開くとかすると、いろんなことの情報交換もできる。</p>
座長	<p>企業で言えば職能別研修みたいにするとかかなり満足度は上がるのではないかと。あと今に関連して、1つ目の〈きっかけづくり〉のところで、まだコミュニティ協議会の名前を知らない感じだが、名称を変えているところもあるので、コミュニティ協議会と言われても、まちづくり協議会とわからなかった人もいると思ったりする。感触としては、何らかの組織ができた、とりあえず全市に配置した、というところでは、第1段階クリアという印象。</p>
委員	<p>確かに（コミュニティ協議会を）立ち上げる際みんなで話し合ったときに何となく自然に出てきたのが、目的はまちづくりだ（ということ）。私たちは、校区公民館運営審議会からコミュニティ協議会を立ち上げるというのが目的化しているという間違っただ錯覚に陥りやすい。コミュニティ協議会とつけると、地域の方たちもコミュニティって何となるから、校区のまちづくりのために作る新しいみんなで作っていく協議会、皆さんご存知の社会福祉協議会などのこれまでの協議会とも違うけど、その人たちも一緒になって（活動）するトータルのまちづくりの協議会というアナウンスをしていくことによって、少しずつ認知度が高まっていく。また、協議会の中にいる我々が目的と手段を履き違えていると、地域の方たちもそこまで入ってこられないと進捗の中で思ったので、そこが大切というのを名称にも入れたところ。</p>
座長	<p>カタカナはなかなか浸透しづらいし、おっしゃるように「まちづくり」というと繋がると思う。あとは〇〇協議会といろいろある中で、ごっちゃになって知らないと書いた人がいると思う。</p>
委員	<p>まちづくりをするための「コミュニティ協議会」とは思うけれど、でも「まちづくり協議会」とすると、何か目的だけが（先行しているような）、そんな感じもなきにしもあらずだ。今それぞれに名称をつけているので、それはそれでいいと思うけど、私たちもこのコミュニティ協議会をもう一度認識しないといけないと今話を聞きながら思っていた。</p> <p>先日、曾於市の笠木校区にコミュニティ協議会について話しに行ったけど、やはり地域の課題を探すという気付きを話してきたつもりだが、自分たちの校区はどうなのか。他の校区に話をしながら、自分たちの校区に顧みるような内容になってしまったけれども、コミュニティ協議会という認識をもう一度私たちも持たないと、本当に何をやっていくのかとなると思うので、研修や広報を、もう一度なんとかしないといけないと思った。</p> <p>要はコミュニティを持って課題解決をしていく部分だと自分の中でも認識しているつもりだが、コミュニティ協議会という意識づけをもう一回やらないと、みんな一緒みたいのところになってきている。</p>

発言者	発言要旨
座長	<p>そういう意味では、データにもこうやって（認知度が低く）出ることについて、コミュニティ協議会というシステムを意味付けがしっかりしたものにすするためにも、名称自体を浸透させることが必要なのかもしれない。これまでと全部一緒、似通っているとならないように（しないといけない）。</p>
委員	<p>それぞれの取り方でいいけれども、私自身も改めてそうだと（思った）。専門部の中にまちづくり部を設けた。ただそれに全部町内会が入るみたいな感じだと、まちづくりは全体のことだから自分たちだけまちづくり部としたらおかしい、名前を変えてくれと言われて、次名前を変えないといけないとは思っている。その意識づけを（しなければならぬ）。</p>
委員	<p>実際どうするという話よりも、私は県でコミュニティの事業をやっていて、タイプを整理すると、1つ目はコミュニティが包括的にすべてのものを繋いでいくガバナンス的な機能があるコミュニティ協議会。2つ目は、それぞれの自治会がしっかりしているから、交流をツールとしてコミュニティ協議会を使っているケース。3つ目は、企業などある種の自治とは違う異色のものを呼び込むための入れ子として使っている場合。意外と同じ言葉ではあるけど、実はタイプが違い、多元的だ。</p> <p>鹿児島市がどこを目指しているか、他市はどうしているかであればわかりやすいが、全体として同じ言葉が使われている。県はあえて定義化せずに、それぞれの市町村に任せて、どういうタイプを使うか対応しているのが現状だと思われる。</p> <p>だから、コミュニティはどうあるべきかという議論に関しては、地元住民の方々の意見も踏まえて、市町村レベルでそれを統合するのか、それともいくつつかタイプ別に分かれて選択するのかといった整理が、今後必要になってくるかもしれない。</p>
委員	<p>どこも校区公民館運営審議会をそのまま引きずって行って、見切り発車しているところも多いと思う。だから今一度ここで検証という意味では、その意図、目的、ビジョンをもう1回指し示す意味で必要というのを改めて（感じた）。</p>
委員	<p>コミュニティ協議会にも結構タイプがある。特に離島であればもともとある自治会組織が合併して、そこにコミュニティ協議会という組織をかぶせる場合もあり、同じ言葉を使っているわりには使い方の用途が違うので、このあたりをどう定義するか。</p>
委員	<p>今おっしゃったことで、町内会は、自分たちはちゃんとしているのになぜ今頃そんなことを投げ込まれるのかみたいなのはあった。</p>
委員	<p>また企業や社会福祉協議会（など）の入れ子としての（協議会）というパターンもある。</p>

発言者	発言要旨
座長	<p>3パターンは非常にわかりやすい。この周知徹底というのは、参加参画のきっかけだけでも、やはりコンセプトをしっかりとしていないと周知徹底は進まない。いざというときに立ち返るから、広報も踏まえて、何のためのコミュニティ協議会なのかタイプ分け的なところをしっかりと確認することは重要な作業。</p> <p>とりあえずこのシートとしては、ご意見が出たところが2点ほどある。変わる場所は、根拠資料がこれまで取れていないことを考えると現状では△になって、次のリーダー育成のための主な取組案の項目が増えるかもしれないので、次に向かっていいと思うので、一応このままでよろしいか。先ほどのコミュニティ組織間の連携の支援の当初の方策では、コミュニティ内の連携という想定だとすれば○か。</p>
委員	<p>どちらともとれそうな表現ではあるのでよく読まないといけない。</p>
座長	<p>コミュニティ協議会の組織間ならわかるが。</p>
事務局	<p>表現としては、ビジョンでもこのような表現をしているが、ここの意味としてはコミュニティ協議会内の例えば町内会、構成団体の連携という位置づけだ。その上の地域コミュニティ活動に必要な情報の提供の進捗状況の下段に、協議会同士の情報交換については触れさせていただいているので、この下から2つ目の地域コミュニティ組織間というのは、協議会内部での結びづくりということでご理解いただければと思う。</p>
座長	<p>環境づくりの方は外との関係、結びづくりは内部ということか。だとすれば、ある程度進んでいる実態とすれば○になる。次の計画を立てるときにコミュニティ協議会間の連携や共有を考えて作るということで、結局は現状で評価としてはよろしいか。先ほどの論点整理でも、連携強化というところではかなりご意見もいただいたし、今後必要な取組ということでの論点でそれがあると、今後それに結びつくということはある。ではコミュニティビジョン検証シートについてはこれでよろしいか。</p>
	<p>(異議なし)</p>
座長	<p>それでは二つの論点整理とコミュニティビジョンの検証ということでお話ししてきたけれども、これまでの議論を踏まえて、先ほどの論点整理にこれが足りないとか、あるいはビジョンもこの評価がいいとかあれば願います。</p>
委員	<p>前回の会議でも確認したが、このアンケートの結果を、ホームページなどで情報公開されると思うけれども、もっとより具体的に各コミュニティ協議会の会長や事務局長同士の会議の中でせつかくとったアンケートを全部お見せするのか、要点だけを見せて、それぞれが参考になるように使ってもらえばよりいいという気がするが、令和4年度もしくは令和5年度に計画はあるか。</p>

発言者	発言要旨
事務局	<p>今回いただいたアンケートや概要も含めて協議会の皆様にも情報提供して、今後の活動に役立てていただきたいと思っているので、5年度を今のところ予定しているが、今回いただいたアンケートを有効に活用させていただきたいと考えている。</p>
委員	<p>協議会の名前を知らない方が多いというだけでもすごく議論が活発になると思うので、ぜひ79校区が同じような形で共有認識を進めていけたら、具体的には各協議会の実情があると思うけれども、このアンケートが一つの手段として使っていただけるといい。</p>
座長	<p>ネットで公開したり資料を配布したりするだけじゃなく、意見交換会などでアナログ的に言及することで学習が進むと思うので、重要なお意見だと思う。他にあるか。</p>
委員	<p>資料1の2の住民参加のところで、若年層はそもそもいつからか調べたら15歳から(だった)。ということは小中学生は入っていないことになるので、4のコミュニティスクール導入とあるけれども、住民参加というところに小中学生は入ってこないと言葉上はそうなってくる。私は入れた方がいいと思っている。</p> <p>今コミュニティスクールの委員をさせていただいてるが、中学校の全校生徒にアンケート調査があった。地域との関わりを持ったことがあるか、イベントに参加したことがあるかというのは20%だった。結構低いという話になって、コロナ禍とはいえやはり地域とどういう動線を引いたらいいか考えなければいけないと話をする中で、校長先生と話したのは、生徒会と騎射場のきさき市のイベントと一緒に何か考えられる場とか、接点を持たないかという具体的な話になり、面白そうだからやってみましょうという話になっていった。ビジョン的なものとして、小学生から中学生、高校生になっても地元に残っている人がコミュニティ協議会に何かイベントで参加することができたら、ここに携わってくれる小中学生が二十歳とか社会人になる頃に、次の10年のあり方は変わっていると思う。そこを見越しながら、若年層及び小中学生という言葉を入れたらどうか。</p>
委員	<p>賛成だ。なぜかという、今子どもの権利条約の話があって、それこそ子どもも社会参加参画の権利があるという話はまさにおっしゃる通り。要するに多世代間交流で子どもたちも含めるような形。確かに言われてみれば、子どもたちも一緒にという形の文脈に変えていただきたいというのが大事なご指摘だと思う。</p>
委員	<p>大学生向けにやるワークショップに中学生が来るけれど、中学生の方が面白い意見を言ってくれたりとか、楽しそうにしてくれてる姿を見ると、(コミュニティへ参加する)若者は(大学生より)もっと若い(人でもいい)んだろ</p>

発言者	発言要旨
	<p>うなと感じる。子どもたちがもっと入ってきてくれるといいと思っていて、そうなったときにコミュニティ協議会の定義が大きく変わる必要があると思っている。</p> <p>まちづくりをしている感覚を持っている私ぐらいの世代の人たちはそんなに多くなくて、「課題解決をするために集まっている」というネガティブなエネルギーが働いていることに対する、多少の抵抗がある人たちは出てきそうだと思っている。(実際は) もっとポジティブだし、自分たちのライフスタイルにも深く関わってくるところが次のビジョンで定義されることが、若年層の人たちが関わりたい、それだったら関わられるかもと思える一つになった。子どもたちと話していると、大学生や20代の社会人よりもっと下の世代が主役になってくると思うので、そこがあるといいと思った。</p>
座長	<p>文言を見ると地域の様々な主体の取り込みに入るけど、特別に若者あるいは小中学生を立てること自体は鹿児島市らしいし、今後に向けて大事。市長もお若いし、若い世代を意識しているところもあるけど、どこの自治体も、企業も含めて、どうやって若者に接するか毎日のように聞かれる中で、特に若い世代みたいな形でもう一つ項目を立てるのはいいかもしれない。それ自体がメッセージになる。</p>
委員	<p>小中学生をどうやって地域で育成するかというところに、保護者は絶対参画してくるので、そういう仕掛けの方が大人が入ってくる確率は高くなる。もちろんシングルの方をどうするかは考えなければならないところだけど、まずは家族連れ、お子様をご家庭から徐々にボトムアップして広げていく仕組みを作った方が未来的にいいと思う。</p>
座長	<p>紫原コミュニティ協議会では、清掃活動を地域の方々と地域コミュニティの方々と一緒に全校生徒が(取り組んだが)、お互いにすごく好評。学校側としても、行事の中に新たな地域との連携は教育行政でもどんどん上から降ってきているので、やはりいいかもしれない。何らかの形でそのワードを入れられたらと思う。</p>
委員	<p>基本的に青少年健全育成のルートが主流であり、夏休みの過ごし方みたいな構成になっているけど、問題をどう防ぐとか、彼らが危険に及ばないようにももちろん大事だけど、彼らをしっかりと迎え入れて、実際にともに作り上げていくみたいな場として機能していかないといけないと思う。ぜひ、多くのコミュニティ協議会の方に聞いていただきたい。</p>
委員	<p>鹿児島市独特のあいご会をうまく活用することが大事。実際そこでリーダーになった子どもたちが、中学校の立志の集いで実行委員を作って、大人の中で一緒になって、自分たちの集いをみんなで盛り上げようという校区も多いみたいなので、地域の中に活動をもっと広げていくのも大事かもしれない。</p>

発言者	発言要旨
委員	例えば、予算を小中学生と絡んだ事業で10万円とするなど、予算立てにも繋がると面白い。
座長	向こう側にもシチズンシップ教育になる。
委員	学校側としてもコミュニティスクールで何かしないといけないと言われていいる。コミュニティ協議会は同じことをやっているけど、財源とかきっかけづくりをどう作るかがポイントだ。
委員	<p>地域の様々な主体の取り込みの中で、地域の福祉という部分に今話された子どもたちも取り込んで欲しいなと思うが、これからコミュニティ協議会の中で解決していくということも望まれるだろうと思う。イベントで繋がっていく中で、福祉を解決していくという可能性はこれから大いにあると思うけれども、働き方改革の中で地域に参加して地域のことに興味関心を持って参加してもらいたいと思う。課題解決をしていくために人材が必要なので、コミュニティ協議会単独で考えてといってもなかなか考えられない部分もあると思うので、地域課題の解決先、地域の住民が主体的に取り組むことのきっかけを、どこかで作っていかないといけない。</p> <p>それぞれ単独でできない部分も、地域の課題は見えている。単身者が怪我とか事故にあったりすると介護保険がおりるまでに手伝いが必要。そういう福祉の面も、地域の様々な主体の取り込みの中に包括されるものであると思うので、そういうことも十分にとらえていただきたいと思う。</p>
座長	4番の行政内部の連携強化に教育福祉安全等とあるので、福祉をどちらかに入れ込むとあれもこれもとなる。
委員	次のところ（段階）にという部分で、文字だけでは見えない部分もあると思う。何か福祉と安心安全で具体的な（項目が）何かできないかと思った。
座長	内部もコミュニティ協議会と類似の組織間の連携もうまくいけば、この点については社会福祉協議会に任せてみようとかスムーズにできるようになればいい。重要な視点ということで、運営のときに生かすことができればと思う。
委員	これからの細部の問題だと思う。
座長	<p>忘れないようにしなければいけない視点だと思う。</p> <p>それでは、ただいまのご意見を整理して、次回の懇話会で報告をいただくということでよろしいか。</p>
	(異議なし)
座長	それでは本日の会議はこれで終了する。皆様方には、長時間にわたり貴重なご意見をいただき、また、議事進行にご協力いただき、感謝する。